

「我が国全体を俯瞰した量子ビーム施設の在り方(今後の検討の方向性(素案))」
委員からのコメント

- 素案には、「量子ビーム施設等全体を俯瞰した総合的かつ戦略的な推進方策を検討することが極めて重要」(3. 今後の量子ビーム施設の在り方に関する基本方針)や「施設種や運営主体の違いを勘案した上で、総合的、かつ戦略的・計画的に、大型研究施設の整備を進めていくことが重要」といったような全体調整の必要性を述べる表現が多く見受けられる。「日本全体としての、現状の課題把握や中長期的なビジョン策定、さらにこれらの調整をミッションとする、常設の「司令塔」が必要」といった記述が必要ではないか。
- 「サイエンスコーディネーター」の育成や確保の必要性が素案には書かれており、大変重要。従来は、シニア人材の活用が行われてきたが、本格的に育成を目指すには、サイエンスコーディネーターを新たな職種として育成する必要があるのではないか。このことを素案に書き込めないか。
- 異なる量子ビームを相補的に活用するためには、そのような仕事の経験豊富なスタッフが各施設にすることが望ましい。「ビーム種の異なる施設間でのクロスアポイントメント等による人材交流」が、人員不足に悩む各施設の現状を少しでも解消してくれるのではないか。
- ユーザー支援あるいは複数施設の連携のところになると思うが、法規制に懸る案件(放射線管理、高圧ガスの利用、遺伝子組換え体の利用、等)に関して、法の解釈や運用について、国から具体的・詳細な説明、例示等の提示があると、利用側の迷いや混乱が解消され、やりやすくなる面がある。「プラットフォーム整備」等の中にも含まれるかもしれない。
- <良好事例>の記載の中で、特に良いと思われる事例については、今後これらの例をどのように発展・横展開して行くのかも記載すると良い。
- <良好事例>について、各項目の記載の粒度がそろっていない。項目によっては、もう少し具体的な内容を記載すると分かりやすい。

以上